

# 公害・地球懇

NO.158 2008年11月号

ニュース

発行：公害・地球環境問題懇談会

(略称 公害地球懇 / JNEP)

東京都新宿区新宿2-1-3

サニーシティ新宿御苑10F

TEL & FAX 03(3352)4938



高尾山

## 圏央道用地の構造物撤去代執行

### 国と都が強制撤去の方針を表明！住民は提訴

八王子市の圏央道と、それに接続する国道20号八王子南バイパスの両予定地に建設反対派が設置した構造物を、国土交通省と都が行政代執行で強制撤去する方針を示したことを受け、反対派の自然保護団体は30日、国を相手取り代執行令の取り消しなどを求める行政訴訟を東京地裁に起こしました。併せて代執行の停止を求める申し立てをしました。



訴えたのは高尾山の自然を守るうのトラスト運動を通じて圏央道建設に反対してきた「地権者の会・むさび党」(武山健二郎代表代行)。

訴えなどによると、代執行

で撤去の対象の一つとなっている高尾山トンネル南口付近に反対派が設置したデッキ状の建造物の所在地は、国交省が圏央道建設予定地として先行取得した上地ではなく、「むさび党」の所有地と主張。さらに、この所有区分を巡っては東京高裁で現在、反対派と国とが係争中で代執行の対象ではないとしています。

強制撤去の対象にはデッキ状建造物のほかに、同市南浅川町の圏央道建設反対の看板2基と、立ち木4本が盛り込まれています。しかし、いずれも土地収用法に基づき都が収用裁決している土地であることから、反対派は今回の提訴に盛り込んでいません。

国交省と都は住側が自主撤去しない場合、11月18日に行政代執行による強制撤去を始めるとしています。



## D V D『地球温暖化をとめて』制作者座談会

公害・地球懇が地球温暖化防止のために、『地球温暖化をとめて!』のDVDを制作しました。この制作に係わったみなさんによる座談会を紹介します。

### 座談会出席者

監督(映演労連) 小林義明  
 脚本(映演労連) 高橋邦夫  
 制作(映演労連) 梯 俊明  
 制作(公害・地球懇) 橋本良仁  
 制作(公害・地球懇) 鈴木太郎(仮名)  
 司会(公害・地球懇) 清水 澗



橋本良仁さん

やすい内容にしようと、最初に取り組んだ高尾山の自然をまもる市民の会の橋本さんからお話を聞かせてください。

橋本 市民の会は鈴木さんを高尾にお呼びして、学校の先生をしていた方や、こうした課題にセンスのある方々

に集まっていたら、侃々諤々の議論をしました。ナレーションの表現の改善や新たにイラストや画像を挿入するなど、これなら誰でも理解できるというものに改善しました。

これをもって7月4日、洞爺湖サミットに合わせて行われたサッポロ・コンベンションセンターでの学習交流会に臨みました。この交流会で作品を試写し、その後、感想を求めたところ、予想に反して「易しすぎる」「パンチに欠ける」など不評な結果でした。(笑)

司会 使えないという評価を下した全労連の中山さんと橋本さんが連日ホテルで話しあい、全労連傘下の映演労連の力を借りてみようということになり、協力要請をしたのが高橋さんです。高橋さんは、「作り直すなら脚本が大事。なんなら私が書きましょう」ということでDVD制作に関わることになった。高橋さんから、そのあたりの

### 出発点は洞爺湖サミット

司会・@今日はお忙しいところをお集まりいただき、ありがとうございます。公害・地球懇が、昨年末にバリ島でおこなわれたC O P 1 3(第13回・気候変動枠組条約締約国会議)の結論を受けて、7月の洞爺湖サミットに向けた取り組みを具体化する中で、誰でも理解できる地球温暖化問題の学習教材が必要だということになりました。

この問題提起を受け止めて鈴木さんがパワーポイントで制作した『地球温暖化』の電気紙芝居が、DVD制作の

キッカケとなりました。この作品を5月の第2回温暖化問題シンポジウムで上映した時の参加者の反応は、「難しすぎる」「小学生高学年であれば判るような内容に」などたくさ、の要望が出されました。こうした意見を受け止めて、コンパクトで判り



清水澗さん

ことをお話いただけませんか。

## 予算なし人材なし

高橋 地球温暖化問題は、労働組合にはまだまだ浸透していません。7月29日に全労連会館で不評だったというパワーポイントの作品を見ました。それが、このDVD制作に関わる始まりでした。画像が動かない、ナレーションもプロではない、これは眠くなるなというのがその時の印象でした。

しかし、その段階では映像が動く作品を作るということまでは考えていませんでした。だから予算もスタッフのことも何も検討しないでスタートすることになったのです。(笑)

私は、環境問題は素人です。そこで鈴木さんをお願いして必ず入れるべきテーマを整理してもらいました。しかし、学者が語るような語り口ではどうしても難しくなります。そこで考えたのが地球に語るという組み立てです。



高橋邦夫さん

早速、鈴木さんがテーマの整理をしてくれたので、その日の夜には脚本を書き上げ、8月1日の打ち合わせに臨みました。しかし、私1人では、なにも出来ませんから、映画労連フリーユニオン委員長で映画監督の小林さんに声をかけたのです。いざ取り組みを開始すると、やはり動かない映像では無理ということになりました。そこで、8月の暑い最中でしたが最低限の映像を撮影する作業になったのです。

## 監督自らカメラマン

小林 パワーポイントの作品を見て、マックの映像処理ソフトを使えばもう少しまとまったものにできるのではないかと、軽く考えました。(笑)しかし、いざとなると使える画像がないのです。このままでは、期待したものにはならないと思いました。

予算があれば、カメラマンや音の専門家をお願いできますが、それが無い。しかたなく、私がカメラを回すことにし

て撮影を始めました。すぐにでも出来上がるとおもっているプロデューサーの橋本さんがうるさいのです。温暖化問題は、たくさんの人々に見てもらう必要があると考えていましたから、投げ出すわけにもいなくなっていました。

画像を集めることは大変な作



小林義明さん

業です。科学的な画像は、鈴木さんのご協力で入手しましたが、それ以外の画像は新たに撮影しなければなりません。本来の撮影の場合は、対象となる場所を事前の許可をとる必要があるのですが、監督助手、撮影助手のようなスタッフはいません。無理を承知でぶっつけの撮影を行いました。(笑)

つぎは、ナレーションを誰にお願いするかということでした。地球に語るという設定を考えると、飯塚さんが適任と思いました。飯塚さんは、テレビの仮面ライダーやアニメ映画『宇宙戦士ガンダム』などで、悪の親玉の声を演じてきたベテランの声優さんです。

「男のダミ声で18分もつか」という意見もありましたが、NHKの女性アナの優しい声では地球が直面している危機を表現できないと、私の選択を通していただきました。

編集専門の技師にご協力いただきました。最後の場面で、月面を地球が昇ってくる場所がありますが、編集者が3D映像で作って無料で提供してくれました。

また、ナレーションの録音は、録音スタジオを使用しますが、予算がありません。それだけで30万円くらいになります。しかし、お金はありません。S社の労働組合にご協力をいただき、小さな会議室をお借りしました。整音、ダビングをS社の録音技術者がボランティアで協力、著作権フリーの音楽、効果音を提供いただきました。音楽スタジオが空いているというので音響技術者ともども、ご協力いただきました。

## 映像に対する外部圧力

高橋 今度のような作品をまともに作ったら、かなりお金がかかります。例えば干ばつや環境問題を象徴するような映像は、その映像使用だけで500万円くらいかかるでしょう。(ヘーの声)

小林 だから、私がかって撮影した映像で、使用可能なものはかなり使わせて頂きました。撮影の難しさは、別のところにもあります。例えば群集シーンがありますが、個人の顔が判るように撮るのはダメ。個人情報に犯すことになるのです。(えっ)

高橋 映画『靖国』でいろいろ圧力がありました。この映画に出てくる人たちの許可をとったのかと問題にし



たのが自民党です。しかし、みんなの許可をとるなどということになれば、ドキュメンタリーなどは作れなくなります。そうした問題でもこの作品の制作には困難さがありました。



梯 俊明さん

梯 実を言えば、私は映像制作の仕事は一度も経験したことがありません。だから、全労連の中山さんから協力要請の話があった時、軽く引き受けてしまった…。今では反省しています。(笑)

## 仕事を通して判った温暖化問題

高橋●私は地球温暖化問題については、知識が浅く、危機意識もありませんでした。だから、鈴木さんたちが整理してくれた構成案の骨子を読んだ時は、ちょっとショックを感じました。地球温暖化の限界温度が2 で、すでに0.74 上昇し、これからいろいろ努力をしても、さらに1.1 の温度上昇は避けられないことなど初めて知ったのです。

ヨーロッパでは、温暖化対策がかなり進んでいるのに、日本ではなぜ進まないのか。それは、CO<sub>2</sub>の排出削減を日本経団連に丸投げしているからだということ、今度の仕事を通じて知りました。温暖化問題の本質とその対策に本格的に迫った作品は他にありません。

小林●環境大臣は、いまは公明党です。環境大臣への国会質問を聞いていても、原因に迫る質問をしません。大口排出源や戦争の環境汚染などみんな隠してしまっています。麻生首相にいたっては、温暖化ガスの削減目標すら知らない。これは大変なことだと、つくづく感じた訳です。

小林●口ケバスの運転を引き受け、カメラの脚を運んだりしてくれた、梯さんの存在が欠かせませんでした。それから鈴木さんの存在も重要でした。この発電所はCO<sub>2</sub>をいくら排出しているとか、この製鉄所は排出はいくらなど現場で適切な説明してくれるので、安心して映像をとることができました。

梯●@食事をしていた時のことです。鈴木さんのザックを動かそうとしたら、ドッコイショというくらい重いのです。コンピューターなどを詰め込んだ、一番重い荷物を背負っていた人に三脚を運んでもらっていたことに初めて気がつきました。(爆笑)

橋本 横浜のコンビナートの撮影に1日おつき合いしました。1ヶ所撮影するのにかなり時間を費やすことを、初めて知りました。しかも、撮影した映像が使えるものかどうかは編集してみないと判らないというのです。時間が制約された中で、みんなが学べるDVDを作るということで、みなさん苦労された訳です。

それから、市民の会の川瀬さんが果たした役割は重要でした。川瀬さんが20年以上かけて撮り続けてきた映像を使うことが出来たからです。スチール写真は結構あるのですが、動く映像はなかなかありません。川瀬さんは、ビデオテープの制作でも力になっていただきました。

司会●@DVDを見た感想は、まだ本格的に集約できていませんが、いま、何をしなければならぬか理解できるという声が寄せられています。それから飯塚さんのナレーションもインパクトを感じるという感想です。

梯 今日音入れ、ということで飯塚さんをスタジオで待っていると、何と手に包帯をして現れました。3日ほど前に自転車で転んでケガをしたというのです。それでも約束通り来てくれました。声優としてのプロの責任感を感じました。

小林●飯塚さんという方は、録音を手伝うスタッフに手土産までもってきてくれるような、細かい心づかいをしてくれる方です。いま声優が所属している職能団体では生活していけないということで、飯塚さんを中心に、声優の労働組合をつくらうなんていう話も持ち上がっています。組合活動ならお手の物ですから、その節はご相談くださいなんていう話もしています。(笑)

司会●@製作中のエピソードやご苦労についてお話を頂いたのですが、そろそろまとめとして、これから見てくださる皆さんへのメッセージをお話ください。

高橋 当初、全労連の各単産の執行委員クラスに理解してもらおう教材という発想があったようです。しかし、このDVDの内容は全ての国民に見てもらおうテーマです。労働組合の枠を超えた運動にしていく必要があります。だから私も早速10本買いと

り、子どもや友人に勧めています。

小林●@作る側とすれば、潤沢な資金があって副大統領のゴアのような作品を作れたらという思いもありますが、地球温暖化問題は、何よりも自分たちの生存が危うくなるということで誰もが考えなければなりません。全労連が、世界に働きかけるような発想で取り組む必要があると思います。

いま頼りになるのは民衆の力です。ドイツなどでも民衆の力が政府を動かしています。このDVDの制作をつうじて自分も大変勉強になりました。

梯 今年の全労連大会での環境問題の発言は、自交総連など4つの組合だけでした。その意味では、DVDの普及をつうじて、現状をいっきに変えるような取り組みにしたいですね。

このあいだアメリカの環境ビデオを見る機会がありました。その中身は、電気はこまめに消しましょう。ごみは分別して出しましょう。そんな水準です。このDVDは、これからどうするのかということについては十分に描き切れていませんが、どこに問題があるのかということについては明確に述べています。

小林●@鈴木さんがイギリスのスターン報告を見せてくれました。スターン博士は会議の冒頭で、自動車中心の社会からの脱却をすすめています。都会の交通手段を自動車をやめて路面電車に転換すれば、エネルギーは10分の1ですむと述べています。この指摘には本当に驚きました。

橋本●@お金もない、時間もない、という条件の下で

始まった制作活動でしたが、兎も角、DVDが出来上がりました。この作品は、環境省やNHKライブラリーにはない視点がキチントつらぬかれています。と思っています。

公害・地球懇はこれまで温暖化問題シンポジウムを2回行い、学び行動することを統一的に取り組んできました。憲法9条問題では、「9条の会」が全国各地につくられ草の根の運動が進みました。その運動の発展によって9条改悪阻止の世論が多数派になったのです。温暖化問題でも、「メイク・ザ・ルール」を合言葉にさまざまな団体が協力する、そういう運動の広がりをつくり出したいと思っています。そのために、このDVDはきっと役に立ちます。

映演労連のみなさんと公害・地球懇が制作したDVDは、国民1人1人の意識の水準を引き上げ、地球環境を守る運動の流れをつくる。言い換えれば国民的意識をかえる壮大な可能性を秘めていると思うのです。

高橋 憲法9条を世界に広げる。温暖化を止めるためにCO2を減らすこととは共通した闘いだと思います。

司会●@政府や企業は、「公害は終わった」というスタンスです。しかし、水俣病は50年も経つのに終わっていません。ある弁護士さんがいいました。日本は公害体験をしたのだから、温暖化対策では最先端でがんばって当然ではないかと。その意味では、大変有力な宣伝・学習の手段ができたのですから、普及活動に大いに取り組みたいと思います。今日は何かと忙しい中をお集まりいただきありがとうございます。



## 公害・地球懇臨時幹事会及び シンポジウム開催のお知らせ

日時 12月20日(土)

会場 北(ほく)とぴあ

J R王子駅前(徒歩2分)

1

臨時幹事会 10:00 ~ 12:00 8 F 会議室 「ストップ温暖化 エコウェーブ  
の到達点と今後の活動」

2

シンポジウム 13:00 ~ 16:30 7 F 研修室 「ストップ温暖化 COP 15 国際  
合意をめざす私たちの運動」

第17回  
公害・環境セミナー

駒澤大学名誉教授  
石井啓雄先生の講演

# 日本がヨーロッパから学ぶこと

17回目を迎えた公害・地球懇と東京保健会が主催する公害環境セミナーは、10月4日「食の安全と農業・農地問題」と題して駒澤大学名誉教授の石井啓雄先生が講演しました。講演要旨は次の通りです

## 食の安全と農業・農地問題

●私は、20年間、農林省、いまの農水省で仕事していました。その仕事は、農地の調査というものです。だから補助金を地方に配ったり、そでの下をもらったりしたことは一度もありません。

いま食の安全ということが大問題になっていますが、すべて自給自足している農家が多ければ、こうした問題は起きません。食の安全が問題になるのは、その流通の過程で添加物が加えられたりするところから起きています。だから、その過程が誰にも見えるような仕組みにしていけることが大事だと思います。

しかし、こうした分野は私の専門ではありませんので、安全問題はそのくらいにして、今日は農地問題を中心にお話をさせていただきます。

## 農業は家族的生産が世界の中心

●農業生産では、独占的生産者というものはいません。

イギリスのように資本主義先進国でも、農業生産は家族農業です。アメリカは大規模農家の見本のように言われていますが、アメリカ農業も基本的に家族的経営による農業です。

ソ連のソホーズ・コルホーズは集団農業でしたが、その農業はきわめて生産性の低い農業でした。一戸あたりの耕作面積の大小の違いはあっても、世界の農業は家族的経営の農業が主流なのです。

## 半封建的な戦前の日本農業

●日本の資本主義は、明治時代から始まったのですが、日本の農業は、寄生的地主制度という半封建的地主制度に支えられた農業制度でした。この頃の農地は、5町歩、10町歩



という単位で町にいる地主が土地を所有していました。10町歩持てば十分暮らしていけたといわれていました。つまり日本の社会は、資本主義的生産構造と半封建的社会構造が混在した構造だったのです。

## 戦後の農地改革

●戦後、アメリカの進駐軍によって日本の農地改革が進められました。それは、193万haの農地を、その農地を耕作するものに与えるという改革でした。この農地改革を制度として確立した法律が農地法という法律です。これは、農民的土地所有制です。

ヨーロッパ、イギリス、フランス、ドイツでは、市民革命と結びついて、農民的土地所有制度が確立し、今日の農業生産の基盤をつくってきました。だから、イギリスもフランスもドイツも農業大国としての地位を守っているのです。

日本では農地改革によって農家1戸当たりの耕地面積は小さくなりました。農家600万戸に対して耕地面積が600万ha、1戸あたり1haが平均耕地になりました。

## 農地法なくせの声の高まり

●1953年に農地法ができて、いわば農地改革が完結しました。その後の日本の農業を見てきて、農地改革は正し

かったと私は考えています。

ところが、1991年になると「株式会社に農業をさせる」という声が財界からでてきます。トヨタの社長なども熱心にこの主張を展開しました。

その予兆ともいえる動きが1966年(昭和40年)頃か、<sup>①</sup>農地法廃止論という形で表面化します。そのために「農業振興法」とか「農業法」という法律がやたらとつくられました。しかし、世界は基本的に家族的経営が基本であり、資本主義的農業といえるものはありませんから、この考えは主流とはなりませんでした。

水田の場合、1町歩あたり3人手間とか4人手間といいますが、1町歩の水田耕作は、家族的経営で十分だし、それで手いっぱいでした。だから水田農業には大規模経営というものは生まれませんでした。むしろ酪農では大規模農家が出てきました。

やがてトラクターやコンバインという農業機械が導入されると小さい水田では効率わるいと、水田1枚の規模が、6反歩、1町歩という水田が造られるようになります。

1町歩の水田を造るといのは実は大変なことなのです。水田は水を引き入れますから真平でなければなりません。引き入れた水がこぼれない平らな水田をつくる農業土木が必要でした。

また、さまざまな形で農業機械の共同所有も生まれました。しかし、村の秩序を守るために、他の町村の者に農地の売るとは、大変警戒されました。村の中の土地をよそ者が買うことは、村人から嫌がられました。こういうことが一般的でした。しかし、旧町村を越えて、耕作を請け負うものも出てきます。また、耕作しなくなった農地を町村を越えて売買するものもでてきます。しかし、そうした農地の実態はどのようになっているのかよくわかっていません。

## 日本の農業はどうしたら守れるか

●<sup>②</sup>農家は社会奉仕で農業をしているのでは有りません。都市労働者の賃金の見合う農業収入がなければ、やがて農業をやる人がいなくなります。

日本でも、かつては70パーセント近い農産物に価格保障が行われていました。しかし、価格保障が無くなっていく流れの中で、都市勤労者と農民の利益が対立しているかのような報道が、マスコミを通じてたくさん流されました。

農業者の収入が原材料費を差っぴいて都市勤労者の賃金と拮抗するする必要があります。

## ヨーロッパの農業政策

●<sup>③</sup>フランスもドイツも工業先進国ですが、同時に農業大国でもあります。それは、国が農業を守る政策を実施しているからです。

その点で徹底している国がスイスです。

スイスも最初は、価格政策で農業を支援しようとしていました。しかし、価格保障には限界があることに気がつきます。そこで、国内の農地を4つのゾーンに分けました。ゾーン1は、平地で農業生産性の高い土地です。ゾーン4は、山の上の生産性の低い土地です。どこで農業をしても、労働者の賃金より少しだけ少ない収入を得られるように補助金を出すようにしました。

この結果、スイスの農産物は、ドイツやフランスと比べると2~3倍も高くなりました。

スイスとフランス、スイスとドイツの国境は道を歩いていてもどこにあるにか分かりません。つまり自由に行き来できます。

しかし、スイス人は、国境を越えてドイツやフランスに農産物を買に行く人はいません。もともとスイスは小国の連合体ですから、小国の利益を守るにはどのようにすればよいか歴史的体験を通じて知っているのです。

## 農業をめぐる国民の選択

総選挙が近いと言われていています。私は農業を考えると民主党は自民党より危険だともっています。自民党はいつも農村に一定の基盤を置いていますから、農業の実態を離れた政策を乱暴に行うことは出来にくいからです。

都市と農村の関係は、ヨーロッパと日本では大変なちがいがあっていると思っています。ヨーロッパは城壁に取り込まれた都市でしたから、建物を造るにも壁を共同利用し、中庭をできるかぎり広くとる、こうした考え方で街を造ってきました。こうした街づくりをおこなってきた国ですから、未耕作地などという存在は考えられないことです。

日本でも未耕作地などをなくし、農地をキチント使っていくためには、農民に保障を与える必要があります。農村地域を地域として保全するための政策が今こそ必要なのです。(文責・渡辺)



# JNEP 情報

2008年10月

## ラムサール条約新規登録4カ所

10/28～11/4に韓国・昌原市で開催された第10回ラムサール条約締約国会議で、宮城県の化女沼など、新たに4カ所が登録された。また、すでに登録されている琵琶湖の登録面積が拡大された。

新たに登録されたラムサール条約湿地

- ・化女沼(宮城県)ダム湖で、ヒシクイやマガン等の渡来地
  - ・大山上池・下池(山形県)ため池で、マガモやコハクチョウ等の渡来地
  - ・瓢湖(新潟県)ため池、コハクチョウやオナガガモの渡来地
  - ・久米島の溪流・湿地(沖縄県)キクザトサワヘビ生息地
- 拡大されたラムサール条約湿地
- ・琵琶湖(西之湖、長明寺川区域拡大)(滋賀県)

## いわき市に石炭火力発電所計画

日本化成とダイヤモンドパワーが、福島県いわき市に出力40万kWの石炭火力発電所の建設を予定していることが明らかになった。半分は2012年、残りは2014年に運転開始を予定している。CO2排出量は228万トンと予測されている。石炭火力はCO2が天然ガス火力の2倍であり、大気汚染物質、重金属汚染などは桁違いに大きい。値段が安いので電力会社などが大量建設してきた。燃料を天然ガスに変更すれば削減できる100万トンは、日本政府が「京都メカニズム」クレジットを税金で毎年購入する2000万トンの5%に相当する。

斉藤環境大臣も9/26の会見で「一般に売られている電力よりも倍以上の効率の悪さのものが今後認められることについては、強い抵抗があるのではないのでしょうか。私はそのように考えます」と述べている。



宮城県古川市の化女沼(けじょぬま)

化女沼伝説 昔、沼の近くに住む長者の姫が美しく、へびたちが姫を好きになった。そして人間に化けたへびと姫が結婚して子どもが生まれた。生まれた子どもは沼に消えた。姫は、沼からの子どもの泣き声に引き込まれ、沼に身を投げた。



新潟県の瓢湖一白鳥が5000羽もおとずれることで有名

●新潟県の越後平野のなかにある「瓢湖」。5000羽もの白鳥が越冬する白鳥の湖として知られる。しかし、夏の間密かに繁殖しているヨシゴイについて知る人は少ない。ヨシゴイは、5月から9月までを日本で過ごす渡り鳥。その名の通り「ヨシ」の中で暮らし、繁殖する。全長30センチあまり、日本にやってくるサギの仲間では最小の鳥。開発が進む鳥の中で、絶滅が心配されています

## 公害地球懇活動日誌

- 10月1日 主婦連60周年記念のつどい
  - 2日 有明海一農水省前宣伝行動/国会議員要請(ポスティング)
- 2～3日 水保病 政党要請(民主、社民、自民、共産党との懇談会)
- 4日 環境公害セミナー「食の安全と農業・農地問題」大気汚染測定結果報告集会
- 5日 橋本のぶよ・コンサート
- 7日 公害・地球懇事務局会議
- 8日 公害・地球懇温暖化対策推進委員会
- 13日 公害患者と家族の会幹事会
- 15日 「PM2.5環境基準設定」を求める環境省前宣伝行動/交渉「道路連絡会」に関する国交省交渉
- 16日 川崎公害根絶市民連絡会幹事会
- 17日 「千葉あおぞら連絡会」相談会
- 18～19日 全国自治研究集会(京都)
- 20日 東京あおぞら連絡会理事会
- 21日 公害・地球懇運営委員会
- 23日 「大気汚染を考える埼玉県連絡会」準備会/埼玉県 交渉
- 26日 「環境・交通・まちづくり市民フォーラム」
- 27日 「医療費助成制度に関する連絡会」(東京都との交渉)
- 28日 有明海一国会議員要請(ポスティング)
- 30日 「PM2.5環境基準」に関する専門委員会会
- 31日 「医療費1割負担の撤廃」等を求める川崎市交渉

第158号の内容	1	面	高尾山・圏央道用地の構造物撤去代執行
	2～5	面	DVD『地球温暖化をとめて』製作者座談会
	6～7	面	第17回 環境・公害セミナー石井啓雄先生の講演「日本がヨーロッパから学ぶこと」
	8	面	JNEP情報・公害地球懇活動日誌